井田ヲ冒稱ス、鎌倉ノ時供御甘苔ト稱シ、天朝ニ獻ゼリ、〇略註一種潮海苔（シホ）、鹹味（シ）アリ、菜ト（ヨリ）捻海苔雲見村（ヨリ）出ヅ、卷テ指ノ大サノ如シ、等アリ、

髭頭苔　下田ノ大浦及白濱村邊ニ產ス、生ハ青ク乾ケバ白ク、熱湯ニ投ズレバ則青ニ復ス、尤佳品ナリ、

〔伊豆七島調書〕大島

一女は冬より春迄海苔を取、又漁事手傳いたし渡世仕候、

神津島

一此島稼には、男は〇略中冬は海苔を取、江戸へ出し渡世仕、〇略下

〔續江戸砂子一〕江府名產　井近在近國

淺草海苔　雷神門の邊にて製之、二三月の比さかん也、

品川生海苔　品川大森の海邊にて取ル、淺草にてせいする所ののりは、則此所ののり也、

葛西海苔　葛飾郡桑川舟堀二の江今井これらの所にて取り、其所にて製す名產也、淺草のりに似て又異也、

〔江戸總鹿子新增大全七〕江府名物　井近國近在土產

淺草海苔　　淺草雷神門前　うへ木や　四郎左衞門

此淺くさ海苔と云は、元來品川大森の海邊にて取たる海苔を、淺草にて製し、尊貴の御膳にも奉る故、殊更其根元の家を吟味して調べき事也、當時此所に海苔屋餘多有といえども、此四郎左衞門を根元とす、〇略下

〔續百一錄〕延享五年五月八日卯、葉室樣ヨリ日光御土產、〇略中寶蓮院樣へ紗綾壹卷、淺草海苔十五枚一折來ル、